

MB & F の M.A.D.ギャラリーにおける永田力の Chicara Art 展

M.A.D.ギャラリーは自信をもって、才能あふれる日本人アーティスト永田力（Chicara Nagata）が制作した3台の驚くべき「ロードマシン」を展示する。

永田のオートバイは他に類がない。またがることもできる。路上を走ることもできるだろう。しかし、この息を呑むような芸術作品は単なる輸送手段をはるかに超えたものだ。永田の並外れたイマジネーションと何千時間にもおよぶ入念な手仕事による職人技との融合の成果である。

永田は言う。「バイクのスタイルを決める土台となるのはエンジンです。私はエンジンからスタートします。まずエンジンを選び、そのエンジンのディテールを利用してそれにふさわしいスタイルを見つけるのです。」

永田は1基のビンテージエンジンを選んで美しく仕上げると、鋼鉄、アルミニウム、クロム、真鍮、銅を使って自ら手仕上げで製造した500個もの部品と組み合わせる。このクラシックエンジンと、永田の際立ったスタイルを持つフレーム、ドライブトレイン、サスペンションシステム、ステアリングコンポーネントとが融合してレトロフューチャー的、あるいは近未来的とさえも言えるような作品が生み出されている。

「私はCNCや工作機械を一切使いません。全て手工具で少しずつ制作します。私の指示で作業するアシスタントが1人いるので、仕事をするのは2人ですが、それでも1台のバイクを完成させるのに7000~8000時間かかります。」と彼は語る。

グラフィックデザイナーとしての教育を受けた永田は、その職業が彼のオートバイ制作にかける情熱とうまく結びついていると感じている。

「デザイナーであることがオートバイの組み立て方に影響を与え、またオートバイ作りが私のグラフィックデザインに影響を与えることもあります。この2つが互いにとても良い関係になっています。」と言う。

「グラフィックデザインではアイデアやヒント、つまり何か新しいことへの切り口が仕事の最も重要な部分です。物をいかにとらえ、表現するかが興味深い部分なのです。ただ何かを作るのではなく、オートバイを作る場合も、これまで誰も抱いたことがなかったようなアイデアを使って形にすることなのです。」

永田力氏 — 経歴

永田力は 1962 年、東京から 18 時間離れた九州の佐賀県に生まれた。20 歳でグラフィックデザイナーになった永田は、その 10 年後、佐賀でグラフィックデザイン会社 Chicara Inc. を設立した。

「ティーンエイジャーだった頃、私は先輩たちのオートバイを見つめて暮し、いつか自分も乗りたいと思っていました。本当にやりたかったのは全て自分で作ったバイクに乗ることです。そこからカスタムバイクを作るという発想が生まれました。」と彼は述べている。

自分のマシンを設計し組み立てるといふ永田の望みは、バイク事故に巻き込まれ瀕死の状態になった 16 歳の時、潰れかけた。「命は助からないだろうと言われましたが、今日もまだ生きています。」と命の尊さを確かめる結果となった出来事について語った。

矛盾したこと、彼は自分の命を奪いかけたエンジンに人生を捧げる決意をした。永田のアートは、彼によれば、献血し彼の命を救おうと努力してくれた人々への感謝の表現であり、社会に恩返しする手段だという。「どうしたら私が生きて元気であることを世界に示せるだろうかと考えるようになりました。自分が得意なものを作ること、自分にとって大きな意味を持つオートバイを作ること、この方法でそれができると気づきました。」

永田は 1993 年にカスタムバイクの制作を始めた。2004 年、彼はその情熱をさらに一歩前進させ、作品をひとつの芸術スタイルと言えるまでに高めた。これが永田の「Chicara Art」シリーズの始まりとなり、瞬く間にベルギー、ドイツ、フランスのショーで 6 つの賞を立て続けに受賞。2006 年には Chicara Art 1 について AMD チャンピオンシップ（世界的に最も認められたカスタムバイク賞）第 1 位、翌年には Chicara Art 2 で第 2 位（どちらもフリースタイルクラス）を獲得して世界的に認められた。

以来、永田は Chicara Art 3、Chicara Art 4 と制作を続け、現在は Chicara Art 5 に取り組んでいる。彼はこう語る。「私には新たな挑戦が必要なのです。もしできることなら毎年新たなアート作品を 1 つ作り続けて行きたいと思っています。」